

朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）

今年の政治・外交・経済政策の方向：新年共同社説の内容分析

北朝鮮は2002年1月1日に『労働新聞』、『朝鮮人民軍』、『青年前衛』3紙の共同社説を発表し、今年の政策方向を内外に示した。今年の共同社説は「偉大な領袖誕生90周年を迎える今年を強盛大国建設の新たな飛躍の年に輝かそう」という題であった。今回は、金日成誕生90年、金正日還暦を迎えたこの共同社説に現れた北朝鮮の政治、外交、経済面の政策方向を分析してみる。

(1) 昨年の総括と今年の全般的目標

共同社説は、昨年を「21世紀の社会主義強盛大国建設の進撃路を開いた歴史の年」であるとしている³。対外的には、多くの旧西側諸国と国交を結ぶことにより、金正日体制に国際的な承認が得られたこと、対内的には「先軍政治」のスローガンのもと、体制固めが着実に進められたことがその理由であろう。

今年は「偉大な領袖、偉大な指導者の歴史と業績をつきることなく輝かせるための総突撃の年、強盛大国建設の新たな飛躍の年」と規定している。これを実現する上で、4大第一主義すなわち「わが領袖」、「わが思想」、「わが軍隊」、「わが制度」の第一主義が提起されている。

(2) 政治・外交：基本的手法に変化なし

社会主義国家建設の手法としては、今年も軍事優先路線をとっていることに変わりはない。政治の実行方法としては、先ほどあげた「4大第一主義」というキーワードで説明されている。「わが領袖第一主義」とは、金日成・金正日の指導を国家の基軸とするという意味であり、これまでの指導体制と変わりはない。「わが思想第一主義」とは、チュチェ思想を唯一の国家指導思想体系とすることを意味し、これまでの路線に変更がないことを示している。「わが軍隊第一主義」とは、軍が国民に献身的に奉仕する存在であることを前提に、国民に対して血縁的軍民関係を要求する内容であり、これもこれまでの朝鮮人民軍のあり方を踏襲しているといえる。「わが制度第一主義」とは、朝鮮

式社会主義体制を強化発展させることを意味しており、経済建設において社会主義計画経済を実行することを基本としている点で、これまでの路線から大きく変化したわけではない。ただし、どのような分野に注力するかについては、昨年と若干異なる。これは経済の項で述べる。

対米関係では、「米帝」という言葉を2回用いている。1回は「わが軍隊第一主義」の説明の中で、人民軍の侵略者に対する態度を説明する場面で使われ、もう1回は「反テロ」と関連した、在韓米軍と韓国軍の警戒レベル強化に対する北朝鮮側の認識を表しているところで使われている。

日本に対しては、1998年以降、直接の言及はない。

韓国に対しては、上で紹介した「反テロ」関連以外は直接の非難はなく、むしろ「6・15共同宣言」を履行する、民族共同体の構成員としての言及が中心である。

(3) 経済：既存工業の現代化とIT産業の振興

経済建設の課題としては、まず「社会主義経済建設をしっかりと行い、人民生活を決定的に高める」ことがあげられている。これに関連して、「社会主義的分配原則」⁴が工業部門に対する言及が農業部門よりも先になっているのは、2000年の共同社説から3年連続の傾向である。

また今年も、社会主義原則を守る原則の上という制約はあるが、「実利」を経営管理の重要な指標とすることに新たに言及している。同時に、科学技術と教育を重視し、生産施設の更新と現代化を着実に進めることが、経済建設に必要であることが認識している。特筆すべきは、早期に発展させるべき対象として、情報技術と情報産業が列挙されているところであろう。経済関係の記述は、ここ数年で徐々に具体的かつ実利的になってきている。これは、北朝鮮の首脳部が世界経済の中で競争力を持つためにはどうしたらよいかを真剣に考えているためであろう。

経営管理原則においては、社会主義計画経済を固守している北朝鮮であるが、その具体的内容は年々変化が見られる。しかし、本当に変化が始まったといえるのは、経済建設課題が共同社説の後半ではなく、冒頭に現れたときなのかもしれない。

(ERINA調査研究部研究員 三村光弘)

¹ この3紙はそれぞれ、朝鮮労働党、朝鮮人民軍、金日成社会主義青年同盟の機関紙である。この3つの機関は、北朝鮮の社会を代表する機関といえる。このため、新年の3紙共同社説は、金日成存命中の新年の辞に代わり、北朝鮮の国家意思を内外に知らしめるものにとらえてよい。

² 金日成を意味する。

³ 1995年から2000年までは「苦難の行軍」という規定が行われてきた。2001年の共同社説は「『苦難の行軍』で勝利した氣勢で新世紀の進撃路を開いていこう」という題で、新たな時代の建設開始を示唆した。

⁴ 各人が能力に応じて働き、労働に応じて分配する原則をいう。